



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	鯛天野回漕店 中田川センター	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★

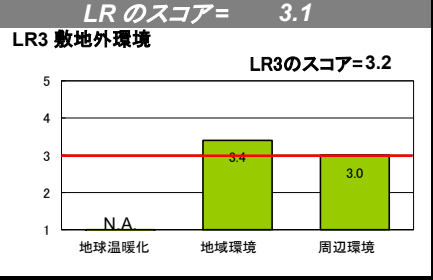
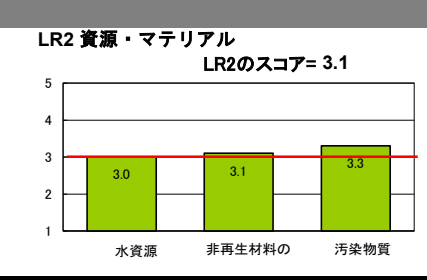
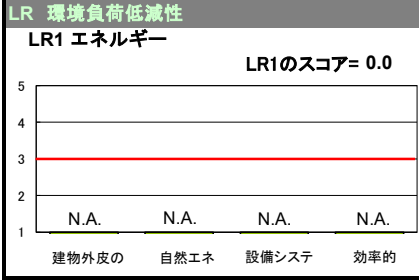
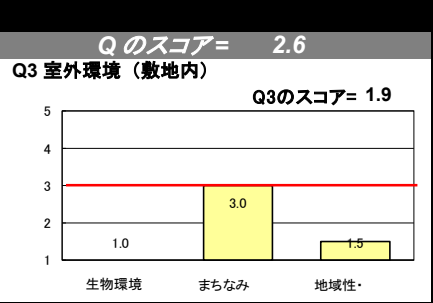
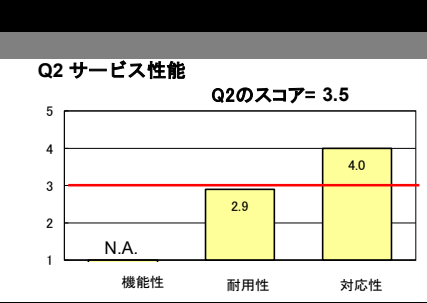
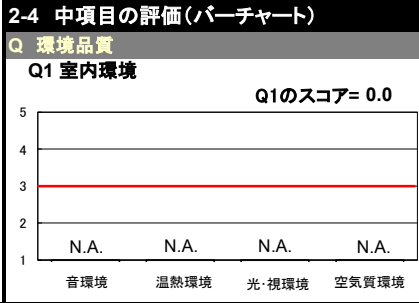
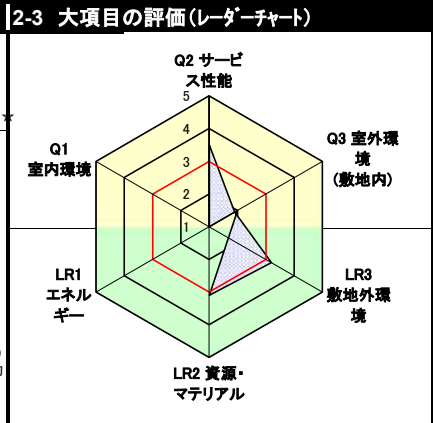
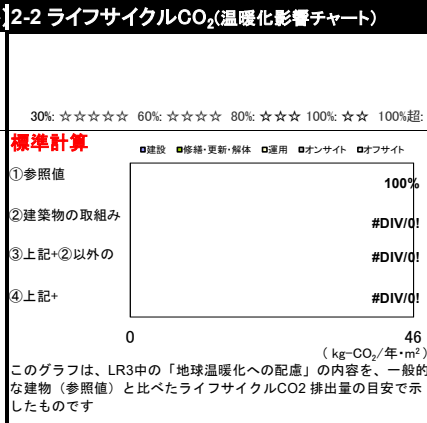
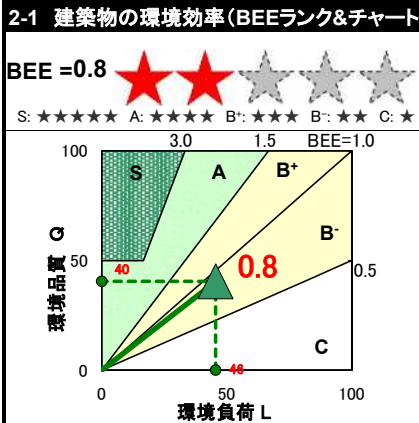
2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.0	/5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.7	/5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.8	/5		がんばろう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.0
<p>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</p> <p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) (※下記記載例は削除し今回計画の環境配慮概要を自由記述) ④床仕上は耐用年数の長いモルタル仕上を採用。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥隣地境界線からの離隔距離を確保し敷地内歩行者空間へ風を導き暑熱環境を緩和する計画とした。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫再生粗粒度アスファルト、再生砕石の採用。 ⑬発がん性物質の含まないロックウールを採用。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭燃焼機器を使用しない事で大気汚染防止へ配慮。 ⑮隣地境界線からの離隔距離を確保し敷地内歩行者空間へ風を導き暑熱環境を緩和する計画とした。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	3.0	
	<p>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</p> <p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑰倉庫部の積載荷重を静岡県建築構造設計指針の値の3倍以上の値を採用。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>	2.7
		<p>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</p> <p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑳階高3.0m以上を確保し、空間にゆとりを持たせた。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>㉑隣地境界線からの離隔距離を確保し敷地内歩行者空間へ風を導く計画とした。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>
	<p>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/②まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>②周辺のまちなみに溶けこむ外壁色を採用し外壁ラインは単純な形状とした。</p> <p>⑥隣地境界線からの離隔距離を確保し敷地内歩行者空間へ風を導き暑熱環境を緩和する計画とした。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑮隣地境界線からの離隔距離を確保し敷地内歩行者空間へ風を導き暑熱環境を緩和する計画とした。</p>		<p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ② まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>

1-1 建物概要

建物名称	㈱天野回酒店 中田川センター
建設地	静岡県静岡市清水区清開2丁目2-3
用途地域	工業地域、建築基準法第22条指定B
地域区分	7地域
建物用途	工場
竣工年	2025年4月 予定
敷地面積	8,841 m ²
建築面積	1,798 m ²
延床面積	4,674 m ²

階数	地上4F
構造	S造
平均居住人員	15人
年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2024年4月1日
作成者	中村博臣
確認日	
確認者	



3 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。敷地は平坦で、敷地東側は国道150号線、南側は公園敷地となる中田川緑道に接している。また、西側北側は本敷地と同様倉庫(別会社)が立地している。国道150号線は幅員22m、中田川緑道は幅員14m以上あり、申請建物南側の隣地境界線までの距離が40m確保され、日照条件は良好と見られる。</p>	その他
<p>Q1 室内環境</p> <p>評価対象外</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>国道150号線側に低層事務所エリアを配置し2階屋上を設備置場とする事で設備の修繕、更新のしやすさに配慮した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>評価対象外</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>土間下基礎下にはRC40材を採用し、外部舗装面は再生粗粒度アスファルト材を採用する事で、リサイクル資材・有害物質を含まない材料を採用した。</p>
	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>周辺の街並みや景観を損なわないよう、外壁ラインを単純化すると共に周辺に溶け込める色彩計画とした。</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>申請建物から隣地境界線まで十分な離隔を確保する事で隣地への日照等に配慮すると共に建物南側北側にサッシを多く配置し良好な温熱環境に配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される